

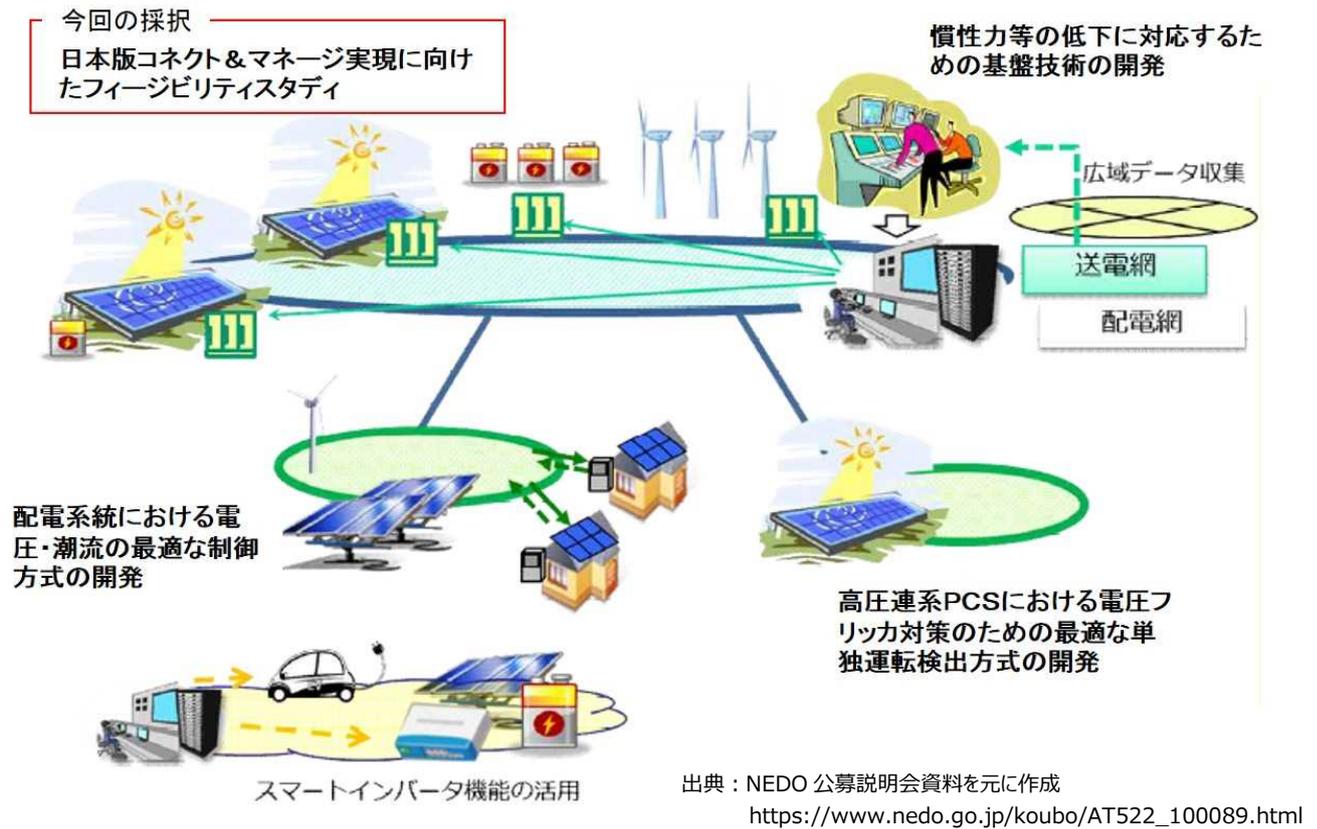
「再生可能エネルギーの大量導入に向けた次世代電力ネットワーク安定化技術開発事業
：日本版コネクト&マネージ実現に向けたフィージビリティスタディ」の概要

1. 事業概要

本事業では、再生可能エネルギーの増加に対して、送配電線の系統の空き容量を柔軟に活用し、一定の制約条件の下で系統への接続を認める「日本版コネクト&マネージ」の仕組みの具体化に向けた検討を実施します。

具体的な実施業務は下記の通りです。

- ・ノンファーム型接続^{※1}を適用時の導入ポテンシャル^{※2}の試算
送電線・配電線に対して、ノンファーム型接続を適用した際の利用可能な空き容量を試算する。
- ・ノンファーム型接続システム実現のための必要事項・課題の整理
ノンファーム型接続システム実現に必要な事項（空き容量の算定方法、電源の出力制御手法、制御に必要なデータ収集内容等）と課題を整理する。また、次年度以降の具体的な実証内容・スケジュールを検討し、提案する。
- ・事例調査
精度のよい発電予想を可能とする汎用ソフトウェアと需要予測精度を向上させる手法について調査を実施する。また、海外における導入実績のあるノンファーム型接続について、制度面、設備面、運用面など多面的な調査を実施する。



事業イメージ

2. 研究期間

2019年7月23日～2020年3月（予定）

3. 実施体制

実施会社	実施業務
東京電力パワーグリッド株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンファーム型接続システム実現のための必要事項・課題の整理 ・次年度以降の実証内容・スケジュールの検討
東電設計株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンファーム型接続を適用時の導入ポテンシャルの試算
株式会社三菱総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンファーム型接続を適用時の導入ポテンシャルの試算 ・事例調査

※1：ノンファーム型接続

系統に空きがあるときには発電することができる新たな電源接続の考え方

※2：導入ポテンシャル

発電種別を考慮した系統の利用可能な空き容量

以上